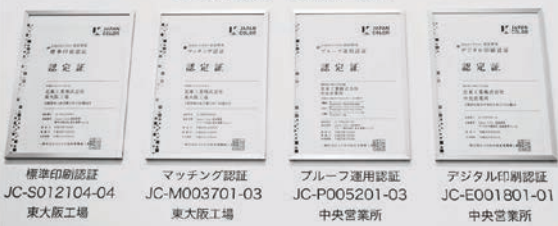


進化形「水なし」で新たな商機を

北東工業 (大阪市)

私たち北東工業は本気です！
西日本で初めて4つのJAPAN COLOR 認証を取得しました！

JAPAN COLOR 認定証



4つのジャパンカラー認証



測色チャートを前に。(左から) 城島課長、東條社長、足立常務

北東工業株式会社(東條秀樹社長、本社・大阪市中央区、従業員数70人)の東大阪工場(東大阪市菱江)では、オフセット印刷機7台全機が水なし仕様となっている。その「水なしだからこそ実現できた」(東條社長)というのが精度の高いカラーマネジメントによる印刷物の高品質化と安定化だ。「安心の生産工場」として多くの印刷会社やデザイン会社の信頼を得てきた同社は、UV印刷機による幅広い原反・厚紙対応力やオーラ耐光インキという独自の強みも加えて新たな商機をつかむべく意欲を燃やしている。

■世界初のLED UV機の水なし化

水なし仕様となっている7台のオフセット印刷機の内訳は次のとおり。油性4台(菊全8色機 2台、菊半2色機、菊半裁5色機)、LED UV機2台(菊全判4色機、菊半裁4色機)、UV機1台(菊四裁6色機)。

印刷機全台が水なし仕様

高精度・安定のカラーマネジ武器に

同社が初めて「水なし」を導入したのは2013年のこと。おりから進んでいた現場改善活動の過程で判明したのが、裏移り・ブロッキング事故の頻発だった。原因の一つにベテランオペレーターの退社による湿し水のコントロール技術の低下や印刷機の老朽化があった。おいそれと新台への切替えもできない中で、自社と同じ型の老朽機を「水なし」化で蘇生させた東京の印刷会社の事例を目の当たりにして自社でも取り組むことを決意。東レやインキメーカーの協力を得ながら、主力の菊全判8色機2台(いずれもアキヤマイン

ターナショナル製)の水なし化を実現した。さらに、同年新設した菊半裁LED UV 4色機(桜井グラフィックシステム)の水なし化に取り組み、1年余を費やして実用化に成功した。LED UV機の水なし化は他に例がなく世界初の快挙となった。

■4種類のジャパンカラー認証を戦力に

水なし化と並行して取り組んだのがジャパンカラーの認証取得である。2013年に「標準印刷認証」、「マッチング認証」、「プルーフ運用方式のアドバンテッジ」を、2018年に「デジタル印刷認証」という

同社では現在、印刷部門をDTP課が管理している。4種類というのは全国でも少なく、西日本では初めてのことであった。

「変動要因の多い印刷物の製造を職人技に頼っていた時代ではない。デジタル時代の今こそ、客観的な数値による共通の物差し、共通の言葉を確立することが必要だと感じた」と語る東條社長。さらに、「これまで水を制するものが印刷を制すると言われるように、変動要因の最たるものが湿し水の存在だった。それが再度計測するということが日常的に行われている。これによって西部門間の円滑な意思疎通と信頼感が醸成されている」という。

さらに、どの印刷機で刷ってもジャパンカラーの基準を満たした同じ印刷物を製造するために、「各印刷機の再現特性(個体差)に合わせてCIPのドットゲインカーブも変えている」(城島課長)という。印刷機を「出力機」と見立てて、DTP段階から一貫通貫して印刷(出力)を制御するというのはきわめて合理的といえる。

■全台耐光インキという独自性をアピール

同社では油性、UV、LED UVと仕様の異なる各印刷機それぞれに最適なインキが使われているが、それらすべてが耐光インキというのも異色だ。

■三位一体の戦力で仕事の幅を広げる

「今は、水なしだからというトラブルは全くない」と語るのは、水なし印刷の立上げから関わってきた足立孝次郎常務だ。日常的なメンテナンスに加えて月1回の本格的メンテナンスや作業環境の整備など「水なし」が完全に手の内に入っている自信を感じさせる。締めくくるとは東條社長。



水なし仕様のLED-UV印刷機



水なしプレートセッター

「現場の人間にとって、どの機械で刷っても同じものが刷れるというのは、長年の夢だった。それが今、実現している」(東條社長)というのもう一つ。今後は、曝光試験40時間(通常の太陽光

「高精度・安定のジャパンカラー、UV機による特殊原反・厚紙対応力、色褪せない耐光インキ。この三位一体の戦力で仕事の幅を広げ、受注の拡大につなげていきたい。」